血小板減少症

血小板減少症 けっしょうばんげんしょうしょう

　末梢血中の血小板が、平均２０ー５０万という正常値に対して１０万以下に減少する状態をいう。白血病、癌など先天的または後天的な疾病による骨髄での産生低下や臓器末梢血中での血小板の利用増大等が原因である。放射線障害による再生不良性貧血も原因となる。

＜登録年月＞
1998年02月